



谷と、「きょう谷」はどのようにちがうの

きょう谷は深くてせまい谷

谷はふつう、川の水のはたらきによってけずられたくぼ地で、わりあい、なだらかなしゃ面に囲まれた所をいいます。

きょう谷は、長くて深く、せまい谷で、急なしゃ面にはさまれています。ときには、そのしゃ面が、垂直に切り立っていることもあります。

1本の川でけずられた、みそのようなきょう谷や、川の支流が本流と合わさっている、きょう谷もあります。このような形をしているものの中で、規模の小さいものを、「山きょう」とよんでいます。

乾燥している所で、きょう谷がしやすい

谷と、きょう谷のでき方のちがいは、ふつう、気候のちがいによります。世界の大規模なきょう谷の大部分は、気候が乾燥している所によく見られます。

このような所は、ほとんど雨が降らないので、いったん雨が降ると、雨が両岸の岩石をこわしたり、けずりとったりするよりもずっと早く、川の水が川底をけずります。それで、切り立ったがけにはさまれたきょう谷ができます。

雨の多い所では、地表全体が、少しずつけずられていくので、わりあい、なだらかなしゃ面に囲まれた谷になります。（監修・国司・真）

